

おのほろ道

歩くマップ

最上町版



行程図[出羽路編]

山形県 最上町観光協会



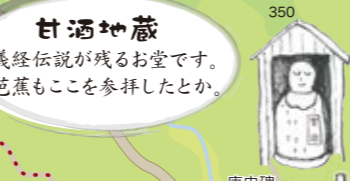
～中山平より
尿前の関の後は、大きな山をやっとの思いで登り、日はすでに暮れてしまった。途方に暮れながら進むと、国境を守る「封人の家」を見つけてなんとか一晩泊めてほしいとお願いした。ところ

が3日間風雨が荒れて、理由もなくこの山の中に逗留しなければならなくなってしまった。人と馬と一緒にくらすこの宿で蚤や虱に頭を悩ませながら寝ていると、枕元には馬の小便の音が響いてくる。



分水嶺
注目のパワースポット。この小さな池から、遙か日本海、太平洋への長い水の旅が始まります。

後沢
橋が無い幅2m水深20cmほどの沢。石を並べて渡っていきましょう。



甘酒地藏
義経伝説が残るお堂です。芭蕉もここを参拝したとか。

大山をのぼって日既暮れければ、封人の家を見かけて舎を求む。三日風雨あれてよしなき山中に逗留す。



封人の家
日本で唯一残る「現存する芭蕉滞在の宿」
一六八九年七月一日(元禄五年五月十五日)夕刻に到着。夏至の10日後だったことから、午後七時頃に着いたと思われる。
「馬の尿する」の句の「厩舎」を実際に見ることができません。また芭蕉一行が2日滞在したよりも当時の面影を残しています。
■入館料:一般高校生以上250円(小学生120円)
■公開期間:4月～11月(冬季は閉鎖)

～封人の家より
宿の主人が言うことには、この先清風のいる尾花沢に行くには、途中大きな山があり、道もしっかりしていないから、道案内の人を頼んで越えたほうが良いとのこと。では、ということで、案内人を頼んだところ、屈強な若者が反りの入った脇差を横に、檜の杖を携えてたちで、私達の先に立って先に進んでゆく。今日こそ必ず危険な目に遭いそうな日だなど辛い思いをしながら後についていく。宿の主人が言ったことは間違いなく、高い山は森が深く一羽の鳥の鳴き声も聞こえず、木の下は闇のように藪が茂っており、

まるで夜に歩みを進めているようであった。雲の切れ端からは中国の黄砂が舞うような心地がして、ときには熊笹の藪を踏み分けながら、ときには沢を渡って、ときには岩につまづきながら、肌に冷たい汗をかいて、やっとの思いで清風の待つ村山地方・尾花沢に出た。あの案内した男が言うには、「この峠道では必ず予期しないことが起こるのです。今日は何事もなくお送りすることができ、とても幸いです。」と、喜んで別れた。無事乗り越えてきた今、そのことを聞いても、私の胸の鼓動は鳴りやまなかったのであった。(原文は内面へ)

最上町堺田駅～最上町赤倉温泉駅



笹森集落
曾良日記にも登場する口留番所があった所です。

ナンバ清水
「スズ」とは「湧き出る清水」のこと。芭蕉もこの水を飲んだかも。

琵琶の沢
ここに架かるめがね橋は美しいアーチを描いています。必見!

新屋聖観音
芭蕉一行もここで参拝したかも!?

十七日△快晴。堺田ヲ立。一里半、笹森関所有。新庄領。関守八百姓二貢ヲ有シ置也。ササ森三ツリ、市野々。小国ト云ヘカ、レバ廻リ成故、一バネト云山路ヘカ、リ、此所ニ出、堺田ヨリ案内者ニ荷持テ越也。
『曾良随行日記』



サポート情報



温泉	市外局番 0233	日帰り入浴可能施設	
【赤倉温泉】 赤倉温泉観光協会 ☎080-1660-4083 わらべの湯 湯の原 ☎45-2215 湯守の宿 三之丞 ☎45-2301 悠湯の宿 湯澤屋 ☎45-2201 みどりや旅館 ☎45-2231 旅館 最上荘 ☎45-2059 旅館 しゃくなげ荘 ☎45-2023 くつろぎの里 田代館 ☎45-2121 旅館 いづみ荘 ☎45-2403 いやしの湯「赤倉荘」 ☎45-2512 ひやま山荘 ☎45-2816 日帰り温泉「おくのほそ道」赤倉ゆけむり館 ☎45-3533 四季の宿 まごころ ☎44-2822	【最上温泉】 ウェルネスプラザ 健康センター ☎43-3117 日帰り温泉のみ	【前森温泉】 清流 ☎43-2977 日帰り温泉のみ	【湯見温泉】 湯見温泉旅館組合 ☎42-2123 ゆめみの宿 観松館 ☎42-2311 湯元 喜至楼 ☎42-2011 旅館 小川屋 ☎42-2411 旅館 ほていや ☎42-2427 四季の宿 まごころ ☎42-2031 旅館 松葉館 ☎42-2321

交通案内	アクセス
●タクシー 赤倉観光タクシー ☎43-2115 (日曜日定休)	●バス 尾花沢市営バス ☎0237-22-1111
JR新幹線・在来線をご利用の場合 東京 東北新幹線 約2時間20分 古川 陸羽東線 約1時間 赤倉温泉駅	高速自動車道・一般道ご利用の場合 東京 東北自動車道 約6時間 古川 IC 国道47号(最上方面) 約1時間 最上町

施設	サービス	施設	サービス
小学校	寺	駐車場	お食事処
中学校	名跡	トイレ	そば屋
博物館	芭蕉句碑	電話	土産物屋
温泉	芭蕉の足跡	バス停	スキー場
バス	ビュースポット	ガソリンスタンド	紅葉の名所
神社	東屋	桜の名所	紅葉の名所

インフォメーション
最上町 観光のお問合わせ先 最上町観光協会 TEL.0233-43-2233
ボランティアガイド ☎0233-43-2233 封人の家(旧有路家住宅) ☎0233-45-2397
最上町役場 ☎0233-43-2111
尾花沢市役所 ☎0237-22-1111 芭蕉・清風歴史資料館 ☎0237-22-0104
山形県 観光のお問合わせ先 やまがた観光情報センター TEL.023-647-2333 R4.1.5000

「おくのほそ道」最上町

高山森々として「鳥声聞かず」

あるじの云、是より出羽の国に大山を隔て、道さだかならざれば、道しるべの人を頼て、越べきよしを申。さらばと云て、人を頼待れば、究竟の若者、反脇指をよこたえ、檜の杖を携て、我くが先に立て行。けふこそ必あやうきめにもあふべき日なれと、辛き思ひをなして後について行。あるじの云にたがはず、高山森々として、「鳥声きかず、木の下闇茂りあひて、夜る行がごとし。雲端につちふる心地して、篠の中踏分く、水をわたり、岩に蹴て、肌につめたき汗を流して、最上の庄に出づ。かの案内せしおのこの云やう、此みち必不用の事有。恙なうおくりまいらせて、仕合したり」と、よろこびてわかれぬ。跡に聞てさへ、胸どころくのみ也。

至国道47号線
JR界隈駅〜JR赤倉温泉駅（裏面をご覧ください）

尾花沢〜最上町一刻地区
この先、電話つながりにくい。
バス時間確認、タクシーの手配
尾花沢市営バス(市役所):0237(22)1111
赤倉観光タクシー:0233(43)2115

モデルコース最上町
JR赤倉温泉駅
山刀伐峠入口(最上町) 徒歩(30分)
山刀伐峠子持杉 徒歩(50分)
山刀伐峠出口(尾花沢口) 徒歩(180分)
市野々 徒歩(20分) 徒歩(180分)
芭蕉・清風歴史資料館



棚田の連続
少しずつ広がってゆく田んぼの風景は、日本の大事な原風景です。



赤倉温泉
芭蕉が通過したのは7月3日の早朝7時頃か。温泉に入っていったか？横目で見ながらいったか？

まぎ 万騎の原
芭蕉一行が通った100年前の1580年、ここで最上義光軍と細川軍が戦を行いました。

注意！尾花沢〜最上町一刻地区
この先、電話つながりにくい。
バス時間確認、タクシーの手配
尾花沢市営バス(市役所):0237(22)1111
赤倉観光タクシー:0233(43)2115

大平集落跡
林を抜けて旧県道に出ると、かつて集落があったこの地ののびやかな棚田の風景が広がります。

標高470m。
加藤楸邨さんが揮毫した石碑あり。
子持杉も必見。



まじやれ茶や
TEL:080-1660-4083
(土・日・祝日のみ営業)
10:00~15:00



最上町ボランティアガイド協議会
(最上町観光協会内) 0233(43)2233



芭蕉がこの地を旅したとき「道さだかならぬ場所だったので「屈強の若者」を依頼しました。芭蕉はこの地に住む若者とどんな会話をしながら道を進んだことでしょうか。山形弁も織り交ぜた楽しいガイドいかがですか？
トレッキング 4000円

茶屋の跡
沢を渡り終わった場所にかつて茶屋(与市茶屋、三吉茶屋)があったそうです。

二十七曲がり
ブナの原生林に覆われた標高差100mの美しい峠道。森村誠一さんも「名蕉100選」のひとつに挙げています。

※雨の日は特にすべりやすくなっておりますのでご注意ください。

熊出没注意
鈴やランチョなど音の出るものを身に付けて通行ください。